



# 木曽川下流自然観察会

テーマ 「木の実・草の実を観察しよう」

日時 2015/10/11 9:30~12:00

参加者 一般：2名（うち子ども1名）

指導員：2名

朝、出かける時に雨だったこともあり、138タワー前に集まったのは4名でした。観察会が始まる9:30にはほぼ雨もあがり、傘なしで回ることができました。

サイクルングロードの整備工事が始まっていて、河川敷に降りるいつもの階段が使えず、少し上流に行ったところから河原に降りました。河原はきれいに草が刈りこまれた所が多く、虫もあまり見られません。それでも、わずかに残った草原で、「ひっつき虫」のコセンダングサ、アメリカセンダングサなどの実をルーペで観察し、服につけて遊びました。ひっつき虫は動物に付着して種子を広範囲に散布してもらおうという戦略です。公園の中の林には、珍しいことに在来のヌスビトハギと外来のアレチヌスビトハギの両方が混在しています。近縁のフジカンゾウも生えていますので、実の大きさの違いを比較してみました。



(ひっつき虫：上からヌスビトハギ、アレチヌスビトハギ、フジカンゾウ)

河原のススキやイタドリは、種子を風で飛ばして、生息場所を広げるものです。飛びやすくするため、種子に綿毛や翼がついていることを確認しました。

次は、動物に食べられて種子を運んでもらう実です。食べてもらうために種子の周りに果肉などが発達しています。河原のエノキ・アカメガシワの林にはアケビの蔓が絡みついています。熟して丁度割れたばかりの実がぶら下がっていました。アケビを食べたことがないという親子が珍しそうに触っていました。都市ではスーパーで売られていても、野生のアケビの実を見る機会がないので、こうした場所にあることすら知られていないのでしょうか。アケビの実はメジロ、ヒヨドリなどが好んで食べます。



(アケビの実)

ほかに、エビヅル、クムノキ、エノキ、ヌルデ、ガマズミの実も味わっていましたが、これも初めての体験だったようです。4歳児のA君は美味しいよと言って勧めても、まったく口にしようとしませんでした。それでもドングリは好きだと言って、落ちていたマテバシイの実を拾っていました。

また、ダンゴムシ以外は触れたことがないと言っていたA君ですが、観察会の終わり頃には何とかオオアオイトトンボとスイフヨウの葉にいたフタトガリアオバの幼虫に触ることができました。これをきっかけに、自然に関心を持ってくれるようになってほしいものです。



(フタトガリアオバの幼虫を観察)

<その他観察できたもの>

実：ハナミズキ、コブシ、タイサンボク、ノイバラ、ノブドウ、イボタノキ、オオブタクサ、クスノキ、ガマ、ヒメガマ、サンシュユ、シロダモ

花：セイタカアワダチソウ、キダチコンギク、ヒメムカシヨモギ、ヒガンバナ、キンモクセイ

虫：キタキチョウ、ホシホウジャク、アオマツムシ（声）、エンマコオロギ（声）

鳥：ハシブトガラス、キジバト、ヒヨドリ、モズ